

<p>研究タイトル</p> <p>骨の成長に最適な牛乳乳製品とカルシウム摂取量： 二重エネルギーX線吸収法による一般小児の疫学研究</p>
<p>研究者名（所属先）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 甲田勝康（関西医科大学・医学部） ・ 立木隆広（中京学院大学・看護学部） ・ 藤田裕規（近畿大学・医学部） ・ 伊木雅之（近畿大学・医学部）
<p>【目的】</p> <p>成長期の骨量は主に乳幼児期と思春期に急増する。骨量獲得に影響を及ぼすものとしては、①内分泌ホルモンやその他の液性因子、②重力や身体活動による力学的負荷、③栄養摂取がある。また、骨量を精密に測定する方法として二重エネルギーX線吸収法（DXA法）がある。本研究では、DXA法を用いて、成長期の最大骨量獲得に最適な牛乳乳製品とカルシウムの摂取量について検討する。</p> <p>【方法】</p> <p>本発表内容は、牛乳乳製品健康科学学術研究委託研究によって一部実施されているJapan Kids Body Composition Studyの対象地域（喜多方市、三島市、袋井市、浜松市、淡路市、姫路市）のうち、喜多方市塩川地区のデータを用いて分析したものである。調査対象集団は、2013年11月に喜多方市立塩川中学校区に在籍した全小学4～6年生（275名）である。この内、3年後追跡調査（2016年7月）にも参加し、骨量および骨密度、牛乳およびカルシウム摂取量、その他の潜在的交絡因子に関するデータが得られた児童生徒（217名）を解析対象集団とした。骨量および骨密度は、二重エネルギーX線吸収法（DXA法）を用いて精密に測定した。DXA法測定装置搭載バスを対象地域の学校に配車し、骨量および骨密度測定を行った。牛乳およびカルシウム摂取量の推定には食事摂取頻度調査票を用いた。本研究は、近畿大学および関西医科大学の倫理委員会の承認を得て行われた。</p> <p>【結果】</p> <p>女子では牛乳やカルシウム摂取量と3年間の骨量獲得との間に関連はみられなかったが、男子では牛乳やカルシウム摂取量と骨量獲得との間に統計学的有意な正の関連がみられた。一方、体重を含む潜在的交絡因子で調整した解析ではこの有意な関連は消失した。しかし、体重は牛乳やカルシウム摂取量と骨量獲得の間に存在する中間因子（介在変数）であるとも解釈できるため、体重を潜在的交絡因子の調整から除いた解析を行った。その結果、有意な関連が再出現した。</p> <p>【結論】</p> <p>欧米に比べて乳製品の摂取量が少ない日本人において、乳製品やカルシウムの摂取量が骨量に及ぼす影響についての疫学研究の蓄積が必要である。</p>